

IAUD Newsletter vol.8 第1号(2015年4月号)

- 1.財務省全国財務事務所長会議 藤木理事が講演..... 1
- 2.IAUD アワード 2014 受賞取り組み紹介.....2
- 3.IAUD 4月の予定.....7

UDの必要性やIAUDの活動内容を発信

財務省全国財務事務所長会議で藤木理事が講演

2月26日(木)に財務省本庁舎講堂(東京・霞が関)で開催された全国財務事務所長会議において、IAUD代表として藤木武史理事が、「地域創生に向けたUDのまちづくり」をテーマに講演を行いました。

講演の様子を情報交流センターの北村和明所長が報告します。



講演した藤木理事

「48時間デザインマラソン」を紹介



全国財務事務所長会議は、全国にある財務事務所の所長らを集めて毎年2回、財務省が開催しているものです。

講演会は歴史を感じさせる重厚な雰囲気のある漂う財務省講堂で開催され、財務事務所長や地方課職員など約65名の方々が熱心に話に耳を傾けていました。

←全国財務事務所長会議の様子

藤木理事は、まずはIAUDの活動紹介として、ユーザー参加型ワークショップの「48時間デザインマラソン」について紹介しました。

「48時間デザインマラソン」は、一般企業のプロのデザイナーが地域の障害者の方との対話や共通行動を通じ、一人一人の人間性を尊重し、使い手中心の考え方を重視したものづくりや、社会環境提案を目的としたワークショップです。藤木理事は、ユーザー参加型の開発が新たな視点を生み、開発に革新をもたらすことを、これまでの提案事例を通して説明されました。

続いて、自社(コクヨ株式会社)での実践例として、ロビーチェア「マドレ」の開発プロセスを紹介しました。

さらに、ユニヴァーサルデザインプロセスとプロダクトの課題として以下の3点のポイントを挙げ、それらへの解決策を提示しました。

まず、「UDは製品化が難しい」という課題には、製品として世の中に出さなければ意味が無いという考えを開発者全員が共有し、製品化することが重要であると述べました。

また、「UD商品は売れない」という課題には、企業はUDを差別化戦略として認識してはいけないのであり、必要な手順の一つであると捉えることが重要であると説明しました。

さらに、「UD 自体の定義が曖昧」という課題には、UD は開発のプロセスとして運用実行できるしくみであり、様々なユーザーとの対話をしくみとして取り込むことの大切さを強調しました。最後に、イノベーションには「知の探索」を促すことが必要であるとし、そのためには幅広い知の交流が効果的であることを「ファブラボ鎌倉」の事例に基づいて紹介しました。

多くの参加者で開発を行う重要性を再認識

講演会後の質疑応答では、一人のスペシャリストよりも多くの参加者で開発を行うことや、視点を変えることの重要性を改めて認識した、などの意見が上がりました。

また、様々な人が参加する場合、多くの意見が集まるがどうやってまとめあげるのか、商売の視点で見た場合には売れることも必要だと思われるが採算性は合っているのか、センシティブなユーザーに着目したのはなぜか、などの質問が活発に寄せられました。

今回の講演会は、UD の必要性や具体的な活用例、当協議会の活動内容を発信できる場として大変有意義な機会となりました。(了)



IAUD アワード 2014 受賞者取り組み紹介②

特別な支援を必要な子どもたちの生活と学習をサポート

未来世代部門金賞受賞「特別支援スマホアプリ」

富士通(株)／富士通デザイン(株)／国立大学法人香川大学教育学部

IAUD アワード 2014 は、国内外から 44 件のエントリーがあり、IAUD アワード 2014 審査委員会による厳正且つ公正な審査の結果、「大賞」3 件、各部門の「金賞」6 件、「銀賞」8 件のほか、UD において一定の基準を満たしたものに対し「IAUD アワード」17 件が選ばれました。

今号の Newsletter では、未来世代部門金賞を受賞した「特別支援スマホアプリ」(富士通株式会社／富士通デザイン株式会社／国立大学法人 香川大学 教育学部)の取り組みを、富士通デザイン(株)の杉妻謙氏に紹介していただきます。

※IAUD アワード 2014 受賞の他の取り組みは、以下の Newsletter Vol.7 No.8 2015 年 3 月号をご覧ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1503/31-141554.php>

特別支援スマホアプリ タイマー・絵カード・筆順・感情



特別な支援が必要な子どもたちやその保護者・支援者の QOL 向上を目指して

発達障害や知的障害など、特別な支援を必要とする子どもたちは、時間の理解、コミュニケーションや見通し、書字(字を書くこと)、感情の表現などにおいて支援を必要としている。

2005(平成 17)年には発達障害者支援法が施行、また 2012 年の文科省の調査結果では、全国の公立小中学校の通常学級に発達障害のある児童生徒は推定値で 6.5%(約 60 万人)在籍している可能性があるとの発表もあり、その支援のニーズは社会的に年々高まっている状況である。

一方で、これらの子どもたちの生活や学習を支援する支援機器や、PC用の支援ソフトは従来からあったものの、それら機器・ソフトの入手は容易ではなく、また使用にあたっては準備の手間や知識を要するものであった。

そこで富士通株式会社(代表取締役社長:山本正巳)と富士通デザイン株式会社(代表取締役社長:上田義弘)は、特別な支援が必要な子どもたちやその保護者・支援者の QOL(生活の質)向上を目的として、近年急速に普及が進み、最も身近な ICT 機器となったスマートフォンを活用し、いつでも・どこでも・誰もが、必要なときに支援手段を入手し支援を提供できるよう、「特別支援スマホアプリ」を開発。生活や学習場面での困難を支援する、「タイマー」「絵カード」「筆順 ひらがな」「筆順 教育漢字」「感情」に関する 5 つのスマートフォン(Android)用アプリケーションを 2012 年より公開した。(本アプリの前身となる携帯電話向けアプリについては、2010 年より公開)

特別な支援を必要とする子どもたちの生活・学習をスマートフォンアプリで支援



これらアプリケーションは、発達障害や知的障害がある子どもたちの視覚優位性(目から入る情報処理力の高さ)に着目し、子どもたちが理解や表現を苦手とする、「時間の経過」「伝えたいことやスケジュール」「漢字・ひらがな・カタカナ・数字の筆順」「気持ちやその度合の表現」を、スマートフォンの多様な表現力を活用して、アニメーションやカメラ機能等で視覚化して表示・表現する。

合わせて個々の障害特性に配慮したカラーフィルターやバイブレーションなどの機能を活用することで、子どもたちの理解を支援するものである。

また、入手にあたってはアプリストア(Google Play)からダウンロードすることで必要なときにその場で使用することができ、使用にあたってはタッチ操作で子どもたちも支援者も直感的な操作で簡単に利用できるものである。

産・学・当事者での研究開発への取り組み

アプリケーションの開発にあたっては、ICTを活用した教育と支援を実践している国立大学法人香川大学教育学部(学部長:山神眞一)の坂井研究室・宮崎研究室と共同で、特別支援学校などに通う子どもたちを対象として、教師や保護者へ特別支援アプリを搭載したスマートフォンを貸し出し、実証実験で有効性を検証した。



障害のある子どもたちの声にならない要望に耳を傾けて

本プロジェクトでは、特別支援教育現場における幅広い支援のニーズ、当事者・支援者の要望を捉えることからスタート。香川大学教育学部附属特別支援学校(校長: 恵羅修吉)の協力を得て、実際にデザイナーが学校現場に入り、客観的な観察のみならず、知的障害や発達障害のある子どもたちと触れ合い 24 時間寝食をともにすることで、より深い理解や潜在的なニーズ・ウォンツを探る取り組みを行った。

これにより、障害のある子どもたちの声にならない要望や、教員・保護者など支援者側の課題などの多くの気づきを得ることができた。

さらに観察を通じて発見した気づきについて、教員や保護者、大学の研究者らと対話を行ない、解決の糸口を共創で探求。そこから生まれたアイデアをペーパープロトタイプやプロトアプリなど様々な形で具現化し、実証実験を通じて学校現場などで繰り返し試用評価を行うデザインプロセスを経ることで、アプリケーションの完成度を高めた。



子どもたちの自信や意欲・コミュニケーション力を向上

その結果、実証実験では、絵カードアプリを使用し自身で着替えや買い物ができるようになった事例や、筆順アプリケーションのなぞり書きを使用したことで、書字の誤りが減少し書字に対する自信や意欲が向上した事例があった。

また、感情アプリケーションを使用したことで表現の幅が広がり、従来はどのような場面でも「楽しい」という表現しかできなかった子どもが、「疲れた」「嬉しい」など適切な感情表現ができるようになった事例などの効果を得ることができた。



ICTで人々をエンパワー

実証実験の効果に見られるように、発達障害をはじめ様々な障害や病気などの困難がある方の社会参加、自立の支援において、ICT は人々をエンパワーする大きな役割を果たすと考える。

香川大学と富士通は今後も、特別な支援を必要とする子どもたちに有効な ICT の利活用について研究開発を継続していく所存である。(了)

※この取り組みに関しては以下のサイトもご参照ください。

特別支援スマホアプリ：富士通

<http://jp.fujitsu.com/about/design/ud/snasmart/>

タイマー

<https://play.google.com/store/apps/details?id=com.fujitsu.timer>

絵カード

https://play.google.com/store/apps/details?id=com.fujitsu.picture_card

筆順 ひらがな

https://play.google.com/store/apps/details?id=com.fujitsu.stroke_order_hiragana

筆順 教育漢字

https://play.google.com/store/apps/details?id=com.fujitsu.stroke_order_kanji

感情

<https://play.google.com/store/apps/details?id=com.fujitsu.feelings>

特別支援携帯アプリ：富士通

<http://jp.fujitsu.com/about/design/ud/sna/>

タイマー

<http://jp.fujitsu.com/about/design/ud/sna/timer/>

絵カード

<http://jp.fujitsu.com/about/design/ud/sna/picturecard/>

筆順

<http://jp.fujitsu.com/about/design/ud/sna/strokeorder/>



IAUD 4月の予定

4月13日現在

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7 15:00～ ワークスタイル PJ @IAUD サロン	8 13:00～ 検定委員会 @IAUD サロン	9 15:00～ メディア UDPJ & 移動空間 PJ 合同定例会及 び見学会 @印刷博物館 15:00～ 情報交流センタ ー会合 @IAUD サロン	10	11	12
13 13:00～ 手話用語 SWG @富士ゼロック スショールーム	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23 14:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン	24 13:30～ 標準化 WG @IAUD サロン	25	26
27 13:30～ 余暇の UDPJ @IAUD サロン	28	29 みどりの日	30			

Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。
ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例の情報、国内外の UD 関連
イベント、シンポジウムなどの開催情報をお寄せ下さい。

次号は 2015 年 5 月発行予定
特集: 中級検定開催報告

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : salon@iaud.net